

ひろば

社会福祉法人天上会 広報誌
2024年 秋号



天上会第三者委員の就任ご挨拶

天上会苦情解決第三者委員及び虐待防止委員兼身体拘束適正化検討委員会委員 馬場 みさ子

皆様初めまして。この度天上会第三者委員に就任いたしました馬場と申します。

前田理事長様より委員のお話を伺い、私のようなものがお役に立てるのだろうか戸惑いつつも、天上会様には看護学生の実習や亡き河野和子先生の講義、夏祭りなどのボランティア活動と親しく交流させていただいていたことから、敬愛する和子先生の思し召しかと微力ながらお受けさせていただきました。看護と教育に携わっていた私ですが、本会福祉活動上の苦情解決や、虐待防止、身体拘束適正化に関して、利用者と御家族の皆様の福祉と、職員の方々の業務の円滑な推進に少しでも貢献できるよう努力して参りたいと思っております。



社会は少子高齢・人口減少化で福祉への質的量的希求は高く、人手不足やDX促進の中、人間の尊厳とQOLを支えるのは、やはり人の心と温かい眼差しや手が基本です。天上会様は久しぶりに入園するや感じた空気、それは利用者や職員の挨拶や笑顔の花が満ち溢れた温かい風土があります。災害や予期せぬ事多発する昨今ですが、限られた資源で最大限に福祉へのお力が発揮されることを願い取り組ませていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

施設長就任にあたり

照葉の森施設長 本田 友宏

この度、照葉の森の施設長に就任致しました、本田友宏です。

平成21年に天上会に入職しました。最初は新樹楽園に配属され、当時の上司倉常務理事には時には厳しく時に優しく指導をいただきました。平成25年4月より照葉の森に異動になり、その時々の上司、平野さん、前田理事長、松元施設長と指導をいただき、そして周りの皆さんに支えられ今の自分があると実感いたしますとともに心より感謝いたします。



4月以降「施設長になって偉くなったねー」と言われたことがありました。自分としては偉いとは全く思っておらず、役割の違いだと認識しています。

それぞれの役割として業務を遂行してチームとして利用者の生活をより良いものにしていく。これがそれぞれに与えられた役割だと思います。

さて、私の役割として、安定した運営、職場環境の改善等職員の皆さんが安心して働けるようにしていくことだと思っています（当然として利用者の幸せに繋がれるように・・・）

まだまだ頼りなく力不足ではありますが「支えあい 助けあい 街で暮らすを当たりまえに」を胸に、職員の皆さんと実践していけるように努めてまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

児童分野の今後を見据えて

めぶき園園長 新保 真一



今年度4月、児童分野は支援の枠組みを変えました。ここ数年、児童分野を取り巻く環境が変化しており、長年、サービス提供を行ってきた当法人も時代や地域に合わせた変化の必要性が出てきたためです。

歴史を振り返ると、まだ新樹楽園（旧：新樹学園）が児童入所施設だった頃の1982年、「子どもを育てる環境を早期に支えることが大事」と考え、母子通園事業を開始したことが最初になります。その後、2000年に、未就学児の療育を専門とする「めぶき園」をスタート。2012年には、法人本部から現在の肝付町富山へ移転し、近隣市町村からも通いやすい場所へ建物を新設しました。また、同じタイミングで、放課後等デイサービスを法人本部へ残し、「るうと」と新たな名を設けて学童児を受け入れ続けました。さらには、2013年、地域に重症心身障がい児や医療的ケアが必要な子ども（※以降、医ケア児）が通える所が無い状況や、その子たちが先生や友達と関わりながら当たり前で発達支援を受けられる環境をとの思いで「はなのこ園」を開所致しました。母子通園時代を含めると約40年間、3事業所を通じて、多くの子どもたちや保護者の皆様と歩んで参りました。前述のように、サービス体制は変化しても、「保護者と共に」という思いはこれからも変わらずに進んでいく所存です。

さて、具体的にどのように変化したのかを御説明いたします。まずは、「めぶき園」と「はなのこ園」の統合です。「はなのこ園」としての看板は下ろし、「めぶき園」の中で医ケア児への療育を行うことになりました。半年が経過しましたが、昼食時間や活動内容の調整は必要であるものの、子どもどうしの新たな関わりが生まれる良い面も見られています。ただ、この統合にあたっては、それまで御利用されていた学童の医ケア児



～令和6年3月

めぶき園（0歳～6歳）

- ・児童発達支援
- ・保育所等訪問支援

はなのこ園
（医療的ケア児：0歳～18歳）

- ・児童発達支援
- ・居宅訪問型児童発達支援
- ・放課後等デイサービス

るうと（7歳～18歳）

- ・放課後等デイサービス

が、活動場所や職員体制の関係で一部通えなくなる事態を招き、大変心の痛む思いでありました。次の事業所を探すのもなかなか難しい状況であるにも関わらず、保護者の方々から頂いた「はなのこ園があったことで私たちは救われました」「次の人たちの為にも頑張ってください」というお言葉は、今後も決して忘れることはありません。

次に、放課後等デイサービスを行っていた「るうと」ですが、4月から小学生を「めぶき園」に新設した放課後等デイサービスで受け入れ、中学生・高校生を対象の事業所としました。それには、未就学時期は丁寧な療育を行えたとしても、多感な思春期をどのように過ごすかで、成人期の生活が異なってくることを実感するケースもあったからです。社会では、人とのつながり無しには誰も生きていく事はできません。自己肯定感や人への信頼感を保ちながら、誰もが自分らしく生活していけるようにとの願いがあります。中高生のみを対象とした事業所はあまり聞いたこともなく、まだ手探りではありますが、現在は「意思決定」を取り入れた活動に取り組んでおります。言葉で伝えるのが難しかったとしても、本人の中に意思は必ずあって、選択の機会や表出方法を支援することで主体性へ繋げていけます。また、職員も、こちら側で設定していた頃には気づけなかった事や学びが多く得られており、相互に良い影響が出ていると感じております。

最後に、「めぶき園」の今後の展望です。今回、ご説明のように事業変更を行いました。子育てをする保護者や地域のニーズを考えると、まだ十分にお応えできているとは思っておりません。療育施設に最も求められる発達支援の専門性、幼稚園・保育園・学校との連携、きょうだい児のサポート等、「子どもの育つ環境を支える」を目指す到達点は無く、そこへ向かうために必要な変化は今後も行っていきたいと考えております。

令和6年4月～

めぶき園（0歳～12歳）

- ・児童発達支援
- ・保育所等訪問支援
- ・障害児等療育支援事業（県委託）
- ・居宅訪問型児童発達支援
- ・放課後等デイサービス（小学生）



るうと（13歳～18歳）

- ・放課後等デイサービス



天上会の5年後、10年後を考える

理事長 前田 智史

はじめに

天上会は「共に生きる」を基本理念に、幼児期から学童期、成人期、老年期まで就労支援から施設入所支援まで、幅広く事業運営を行ってまいりました。

今年度、法人創設から61年を迎え、地域の福祉的ニーズや経営環境の変化を感じる出来事が多くなってきたので、法人・各事業所の5年後・10年後を見据えた中長期計画の策定の必要性を感じ、今年はそのきっかけの年にしたいと考えました。

中長期計画の策定で大切なことは、もう一度理念や基本方針を関係者と共有し、それを踏まえたうえで方向性を示すことなので、理念や基本方針の見直しを行いました。

天上会基本理念

「共に生きる」私たちは、利用者の皆様がすべてかけがえのない存在として、一人ひとりが大切にされ、本人の持つ個性と自律性を重んじ、本人の望む生活を送れるように共に生き共にのびゆくことを目指します。

天上会支援の基本方針

- 1) 安心と安全の感情の確立、人とのやさしいふれあい、無条件の価値付与をベースに相互寛容の実践
- 2) 「待つ」こと、「観察する」こと、「傾聴する」こと
- 3) 専門性の確立
- 4) チームでの支援



中長期計画5つの基本方針

- 1) 中核になる人材の確保・定着・育成
- 2) 地域の活性化、つながりの構築
- 3) 行動障害のある方に、一貫支援で本人らしい生活
- 4) 高齢化への対応
- 5) 地域の発達支援の拠点から子育て支援の拠点を旨指して

中長期計画の5つの基本方針の方向性

- 1) まずは、人。特に5年後、10年後の天上会を支えてもらう職員を育成すること。
「相互寛容」「待つこと」「傾聴すること」をベースに専門性を確立しチームで支えることのできる職員の育成。
- 2) 地域と共に生きること。天上会も地域の社会資源の一つであることを自覚し、開かれた法人として利用者の方やそのご家族が安心して暮らせる地域となるよう働きかける。
- 3) 行動障害のある方々に、学齢期から適切な環境を提供することで青年期を穏やかに過ごし、見通しを持った成人期の生活を送れるような支援を旨指す。

- 4) 各事業所で、高齢期を迎える利用者の方が増えてきているので、高齢期に向けての専門性の向上、将来を見据えての家族の意向調査、生活の場や日中活動の見直しが必要である。
- 5) すべての子どもが愛され、自己肯定感を育んでいけるよう、保護者が安心して子育てできる環境を支え、そのような地域となるよう子育て支援の拠点を旨指す。

法人研修を実施して

6月14日、職員60名の参加で「社会福祉法人天上会の10年後を考える」研修を実施しました。第1部として、「天上会中長期計画」について説明し、今回5つの基本方針のうちの「人材確保・定着・育成」「地域の活性化」「行動障害のある方の支援」の3つの方針について、グループ分け・討議を行いました。

討議の結果ですが、同じ法人の職員といっても、職種や経験年数が様々な中での話し合いはなかなか難しかったとの意見が多かったです。

終了後のアンケートの意見として、「事業所ごとの課題が多岐にわたり、またそれも絡んだものでした。解決するために具体的な戦略も必要ですが、その課題の洗い出し作業と振り分けが必要だと思います。一番大事なことは、職員一人一人が同じ方向を向き、同じ気持ちでとりかかること。難しいですが、志を一つにして課題をクリアしていく過程に個人のスキルアップとチームワークが創られていくものだと思います。」反省の多い研修となりましたが、今後継続して取り組む必要性を感じました

新入職員の今

半年の勤務を終えて

新樹楽園 生活支援員 西園 彩花



たった半年、されど半年、新樹楽園で生活支援員として勤務してきました。感じてきたことは山のようにはありますが、最近よく考える事は、自己評価ができなければ動まらない職務であるということです。

自己評価ができなければならぬと考える理由は、利用者の方から自分の仕事ぶりを評価してもらえないからです。これには語弊がありますが、利用者の方は自分の仕事に表情や態度を示してくれます。先輩職員からも、「利用者の方は職員のことをよく見ている」と教わり、なんとなく理解しています。しかし私は、私にわかりやすいように言葉で詳細に感情を教えて欲しいと思っています。

利用者の方は「どうして？」というタイミングで、ポジティブでない行動をとることがあります。その時「何か不適切な対応をとったのだろうか？」と考えますが、思い当たらず理不尽だなと感じます。そして、理不尽な「どうして？」が積み重なると、怒りが生まれてきます。働き始めは、自分が怒ることなどない、と思っていましたが、これが虐待の芽なのかもしれないと思い、怖くなりました。

この仕事で大切な事は、自分の軸を固めたり壊したりしながら、太く太くしていくことであると考えます。その場その場で「こうするのが最も良い」と思うことのベストな行動をとり、それを他職員のフィードバックや内省で更新していく。「今の対応は良くなかった」「〇〇さんの心地よい時間を作ろうと行動できたはずだ」と自己評価で一喜一憂、改過自新していきたいです。

しかしまた、利用者の方から「どうして？」というタイミングで、ラッキーな笑顔を見せてもらえます。「笑顔を見せてもらうためにやるんじゃないぞ」と言い聞かせたはずなのに、ものすごく心が温まるのは仕方がないことなのでしょう。

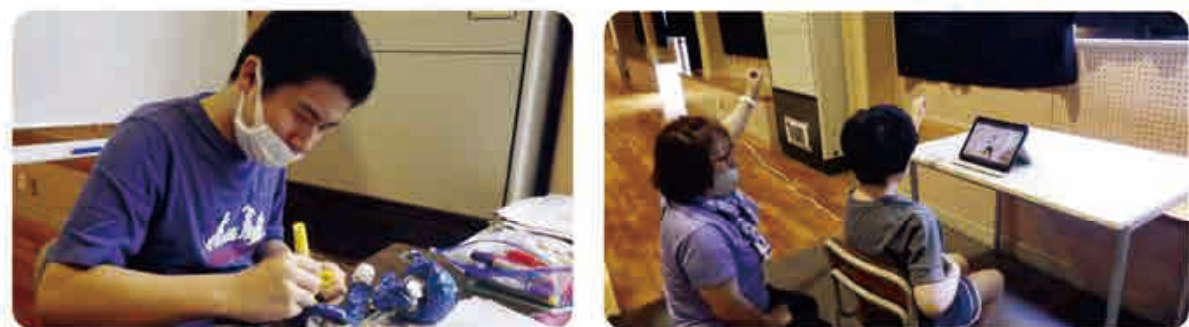
5月3日【とっておきの音楽祭 in かのや】がリナシティかのやで開催されたので参加しました。
この日のために、みなさん歌や楽器の練習をたくさん頑張ってきました。
本番は、笑顔で楽しく歌や踊りを披露し大成功で終わり、みなさんの笑顔で溢れた「とっておきの音楽祭」になりました。
[新樹楽園 西 星哉]



4月からめぶき園放課後等デイサービスが開所しました。こどもたちは、はじめての場所、スタッフに緊張している姿がありました。まずめぶき園に慣れてもらうところから。遊びや活動を通して少しずつ笑顔が増え気持ちを出せるようになってきました。今ではお友達を思い合うなど仲間意識も芽生えてきています。課題中には、「パスしようかな。」と休憩したり、「これだったらやってみよう。」と次を頑張ったりと、やりとりを通して最後は自分で決めて前へ進んでいく姿もみられています。これからもこども一人ひとりの心の成長に丁寧に寄り添ってまいります。
[めぶき園 枝元 智代・るうと 枝元 翔平]



今年度から新たな活動として行っている「エンジョイ活動」は、放課後等の時間に好きなことや興味のあることを自分たちで考えて、それぞれ取り組める活動です。子どもたちの意見の中には、バレーやクッキング、創作、カラオケ、ダンスなど様々あります。取り組む中で、言葉で気持ちを表出するのが難しい人やなかなか自分で考える、決められない人もいます。職員が手助けしながら進めていくことで「こっち」と選ぶことが出来たり、「やっぱりあっちがやりたかった」というような心の動きが見られました。これからも継続していくことで、自分の中の「好きなこと」「得意なこと」が少しずつ確信になったり、そうでもないかと思えたり、他に楽しいことが無いかと思えたり、そんな気持ちの積み重ねをしていきます。



支える人

第10回

～新樹楽園のパートさん達(後編)～

今回も春号に続き新樹楽園パート職員の方々を紹介します。

新樹楽園は日常生活を送る中で全般的に支援を必要とする利用者さんが入所し生活している場所で、支援員はその生活を支えています。

パートさんたちは職員と一緒に、利用者さんたちの生活の援助(食事や入浴等、生活に関わること)を行いながら、いつも笑顔で優しく寄り添ってくれるとても大切な存在です。

そんなパートさんの皆さんにインタビューをしました。



質問

- Q1 好きな言葉は何ですか
- Q2 利用者さん達と関わる中で心掛けていることは何ですか
- Q3 どんな時に「この仕事をやっていてよかった」と思いますか
- Q4 あなたにとって新樹楽園はどんな存在ですか

【支援員】…………… 有山 沙羅さん

- A1 感謝・思いやり
- A2 穏やかな気持ちで話し掛ける(声を掛ける)
- A3 利用者さんとほっこりする時間を過ごせた時、笑顔を見られたら癒されます
- A4 いつもそこにある場所、いつも一緒に存在です



【支援員】…………… 河村 文代さん

- A1 なせば成る
- A2 誰かしら一人でも笑顔が見られるように接する
- A3 笑顔が見られた時
- A4 癒してくれる利用者さんが住む場所



【支援員】…………… 白田 由紀子さん

- A1 笑う門には福来る!!
- A2 なるべく個人の意思を尊重していきたい
- A3 「ありがとう」と言われた時ですかネ
- A4 利用者さんと触れ合う時に元気を貰えるような気がします



アートクラブ ヘアアレンジ講座

新樹楽園 比江島 千尋・カイロス 松元 君代

今まであった絵画クラブから“絵にこだわらず楽しめるクラブ”というコンセプトで引きうけてくださった講師の先生のもと活動が始まったアートクラブ。

そのなかで講師の八反田先生が利用者さんたちにたくさんのオシャレを感じて、毎日を更に楽しく過ごしてほしいという思いからカイロスや新樹楽園のアートクラブ参加者合同で美容師の宮下さんをお呼びしてヘアアレンジ講座を開催してくださいました。

今回はヘアアイロンやヘアカールスプレー、マニキュアを使用し、オシャレの仕方を実演。体験をしたことがないとのことで、利用者さんたちは、マニキュアを塗った爪やきれいな色になった髪を他利用者さんや職員に嬉しそうに見せていました。

参加された利用者さんたちは、とても楽しかったみたいで、「また美容師さんは来ないの?」、「来年はあるの?」と聞き、凄く好評でした。

今回のヘアアレンジ講座は皆さん満足された様子でとても充実した一日になったと思います。



編集
後記

広報誌「ひろば」の表紙を飾っているのは「とっておきの音楽祭」に参加した時の写真です。私たちが地域で暮らし触れ合っていると感じられる一枚です。このように広報誌を通して様々な「現在」と「思い」をお届けし皆さんにご一読していただくことが喜びです。取材や原稿作成など多数の方々のご協力があり今号も発刊できました。発刊に携わっていただいた方々に感謝します。
(新樹楽園 大浦ゆかり)